

2024年1～3月期

HP <https://www.shinkin.co.jp/toshin/>

全業種総合

回答企業数290企業（回答率99.66%）

概況

～総合的業況判断DI値悪化で推移～

総合的業況判断DI値は、前期比18.3ポイント低下の▲23.5と悪化した。

業種別での業況判断DI値は、飲食業が42.1ポイント低下の▲5.3、製造業も3.0ポイント低下の▲18.2、小売業は0.0ポイント横ばいの▲19.8、サービス業は35.7ポイント低下の▲21.4、不動産業が0.0ポイント横ばいの▲22.2、運輸業は50.0ポイント低下の▲30.0、建設業も31.5ポイント低下の▲33.3、卸売業も20.7ポイント低下の▲34.5となった。5業種が大幅に悪化、3業種に於いてもやや悪化・横ばいとなり全ての業種がDI値マイナスに転じた。

～経営上の問題点～

業種全体で「材料仕入価格の上昇」101先、「売上の低迷・減少」94先、「人員不足」87先、「利幅の縮小」71先、「経費の増加」56先と上位を占めた。

前回調査比、「材料仕入価格の上昇」は5先減少、「売上の減少・低迷」が8先増加、「人員不足」は14先減少、「利幅の縮小」は5先減少、「経費の増加」は同数となった。

設備投資計画では、「予定あり」とした企業が37先、前期比1先増加、設備投資実施予定割合は12.8%と前期比0.4%増加した。業種別では、運輸業（機械等）30.0%、サービス業（土地・建物・機械等）23.8%、製造業（土地・建物・機械等）21.2%、飲食業（建物・機械等）15.8%、不動産業（土地）11.1%、卸売業（建物・機械）10.3%、小売業（土地・建物・機械等）8.8%、建設業（機械等）3.5%となった。

資金繰りDI値は、前回調査比8.6%低下の▲17.9と悪化、今期借入した企業は17.6%と前回調査時（19.7%）より2.1%減少となった。

来期の見通し

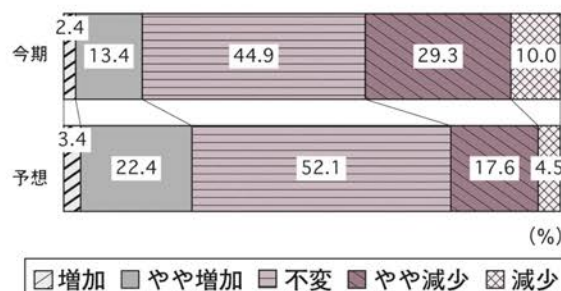
～総合的業況判断DI値悪化の見通し～

各業種の見通し業況判断DI値は、今回調査比27.3ポイント上昇の3.8と改善の予想となった。

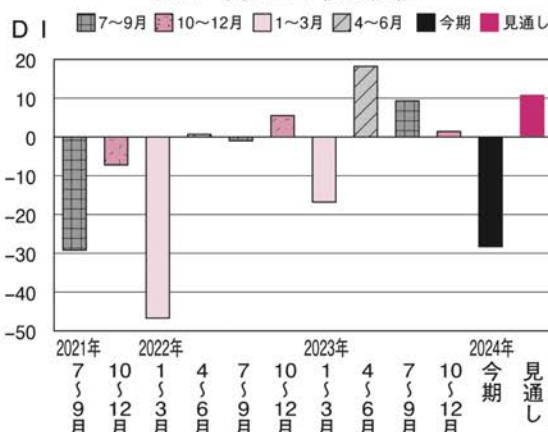
業種別では、飲食業が36.9ポイント上昇の31.6、サービス業も40.4ポイント上昇の19.0、製造業も24.3ポイント上昇の6.1、建設業も35.1ポイント上昇の1.8、卸売業は34.5ポイント上昇の0.0、小売業は16.5ポイント上昇の▲3.3、不動産業は11.1ポイント上昇の▲11.1、運輸業も10.0ポイント上昇の▲20.0と、来期の見通しは全業種改善見通しでDI値は5業種がプラスに転じた。

今期資金手当てした先が17.6%であったが、今後資金手当て等借入を予定している先は15.5%となっている。

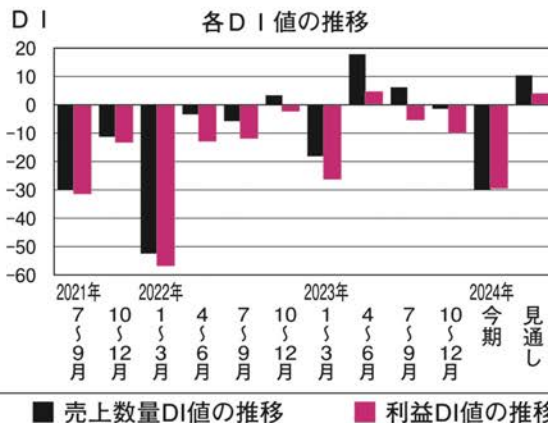
業況判断（全業種）



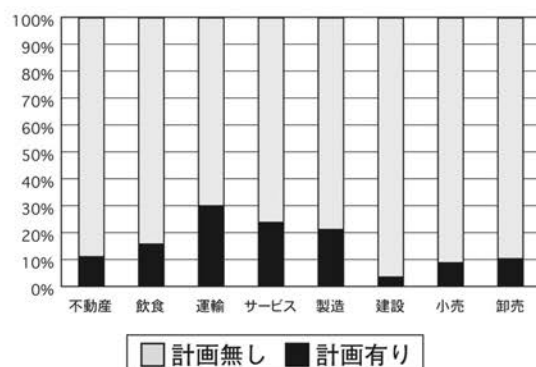
売上・受注DI値の推移



各DI値の推移



設備投資計画の有無



卸売業

回答企業29企業

概況

～業況判断D I 値 悪化で推移～



今期の業況判断D I 値は、前回調査比20.7ポイント低下の▲34.5と悪化し、前回調査予想値(▲3.4)を大きく下回る結果となった。項目別では、売上・受注で34.5ポイント低下の▲27.6、売上数量も34.5ポイント低下の▲31.0、利益でも13.8ポイント低下の▲20.7となった。

閑散期に加え仕入価格の高騰や品薄が続いており、各業種とも業況は悪化となる。

分野別の状況

～総合的業況は悪化で推移～

燃料等卸売業に於いては、暖冬の影響を受け灯油の販売が例年に比べ減少した。

鮮魚卸売は飲食業界の好調を受け、売上は増加したが商品価格の高騰から利益は低下傾向にある。

建設資材卸売業は、資材高騰が続いており、設備投資を控える傾向から売上高も減少傾向となった。

主力商品であるりんごについては、猛暑の影響から品質、生産量とも影響あったものの、価格については産地価格、販売価格とも高値で推移。取扱量は減少しているが、利益確保が見込まれている。

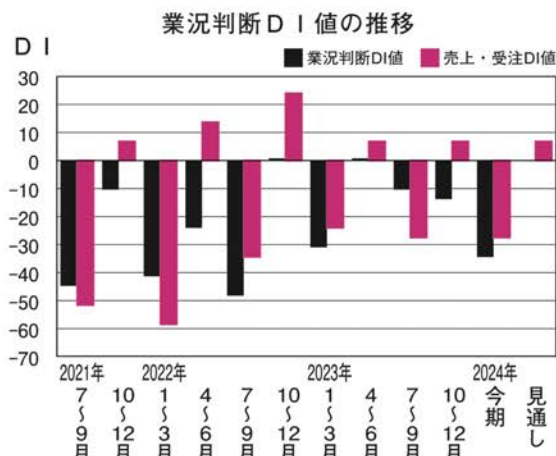
来期の見通し

～業況判断D I 値 大幅改善の見通し～



来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比34.5ポイント上昇の0.0と大幅改善の見通しである。項目別では、売上・受注で34.5ポイント上昇の6.9、売上数量も27.6ポイント上昇の▲3.4、利益でも13.8ポイント上昇の▲6.9と項目別では改善の見込みとなった。

りんごについては、品薄感から市場での引き合いは強い傾向が続く見通し。祭りやゴールデンウィーク等イベントへの期待感から、業況大幅改善を見込んでいる。



小売業

回答企業91企業

概況

～業況判断D I 値 横ばいで推移～



今期の業況判断D I 値は、前回調査比0.0ポイントと横ばいの▲19.8、前回調査予想値(▲15.4)を下回る結果となった。項目別では、売上・受注で15.4ポイント低下の▲24.2、売上数量が16.5ポイント低下の▲25.3、利益でも11.0ポイント低下の▲29.7となり、すべての項目で悪化となった。

暖冬・少雪の影響から客足は例年に比べ多かったとの事であるが、灯油販売に於いては期待した売上は確保できなかった様子。

分野別の状況

～総合的業況は悪化で推移～

酒類小売業は、新年会や送別会等のイベントにより売上高は好調に推移した。

コンビニに於いては、季節商品が牽引し好調に推移。前期同様の売上を確保した。

洋菓子販売はイベント商品である、チョコレート菓子・焼菓子が順調に売上を伸ばしたものの、材料費の高騰で利益率低下となる。

燃料等小売業は、暖冬・少雪の影響を受け灯油の需要期であったが低調、除雪重機の燃料販売も落込む結果となった。

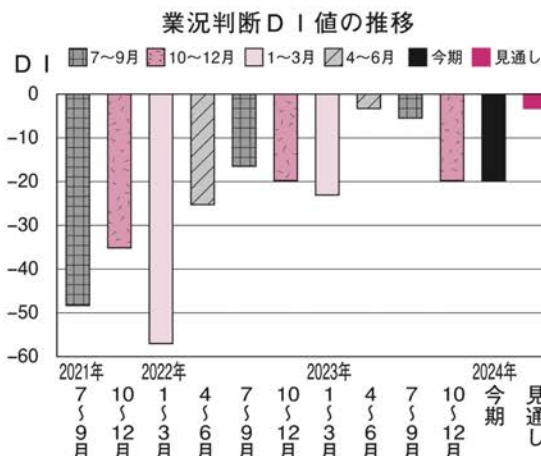
来期の見通し

～業況判断D I 値 改善の見通し～



来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比16.5ポイント上昇の▲3.3と、改善の見通しである。項目別では、売上・受注で27.5ポイント上昇の3.3、売上数量も32.0ポイント上昇の6.7、利益でも27.5ポイント上昇の▲2.2となった。

祭りや観光シーズンを迎えるにあたり、各事業者とも期待感を持っている。自動車販売業に於いても納期が短縮傾向にあり売上増加期待している。



建設業

回答企業57企業

概況

～業況判断DI値 大幅悪化で推移～



今期の業況判断DI値は、前回調査比31.5ポイント低下の▲33.3と大幅悪化、前回調査予想値(28.1)を下回る結果となった。項目別では、売上・受注が36.9ポイント低下の▲43.9、売上数量も35.1ポイント低下の▲43.9、利益でも31.6ポイント減少の▲42.1となった。すべての項目で大幅悪化となった。

冬季間は閑散期であるものの、受注工事に於いては業者間の格差見られる。

分野別の状況

～総合的業況は大幅悪化で推移～

業者間の格差あるも、少雪の影響から工事が順調に進み、工期の短縮や経費節減につながった様子。但し、例年発生する雪害による工事は減少した。

冬季間、除雪事業を営む事業者には暖冬、少雪の影響大きく、売上高は低迷した。

電気工事業者に於いては、4月から資材価格の値上がり通知が各メーカーあり、影響を懸念している。

来期の見通し

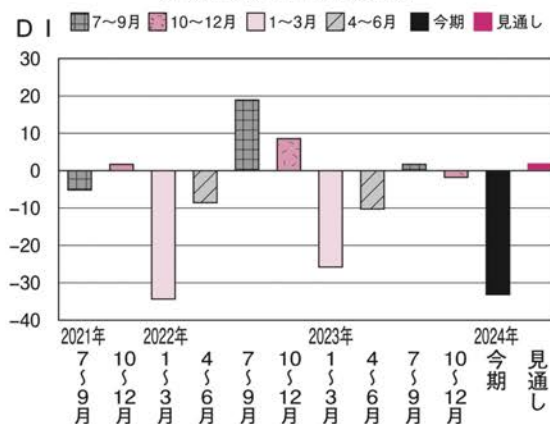
～業況判断DI値 大幅改善の見通し～



来期の見通し業況判断DI値は、今回調査比35.1ポイント上昇の1.8と大幅改善の見通しである。項目別では、売上・受注で45.7ポイント上昇の1.8、売上数量も45.7ポイント上昇の1.8、利益でも36.8ポイントの上昇の▲5.3となった。

来期は業況活発化することが予想され改善の見通しではあるが、業界全般に人材不足であり、各企業とも対応に苦慮している。

業況判断DI値の推移



製造業

回答企業33企業

概況

～業況判断DI値 やや悪化で推移～



今期の業況判断DI値は、前回調査比3.0ポイント低下の▲18.2とやや悪化し、前回調査予想値(▲24.2)を上回る結果となった。項目別では、売上・受注で18.2ポイント低下の▲18.2、売上数量も15.2ポイント低下の▲18.2、利益では0.0ポイント横ばいの▲15.2と2項目で悪化した。

今期は例年閑散期となるため全体的に低調に推移。原材料や資材、燃料費等の経費増加は継続しており収益の確保が課題となっている。

分野別の状況

～総合的業況 やや悪化で推移～

衣料縫製業では定年退職等の人員不足から生産量が減少した企業があり、人材の確保が急務となっている。

アルミ建材製造業では受注好調に推移し売上は確保するも原材料の高騰から利益率は低下している。

印刷業に於いては、取引先のデジタル化により請求書等の印刷物が減少している。また新商品開発による新ビジネスに取組み売上を伸ばしている企業もある。

来期の見通し

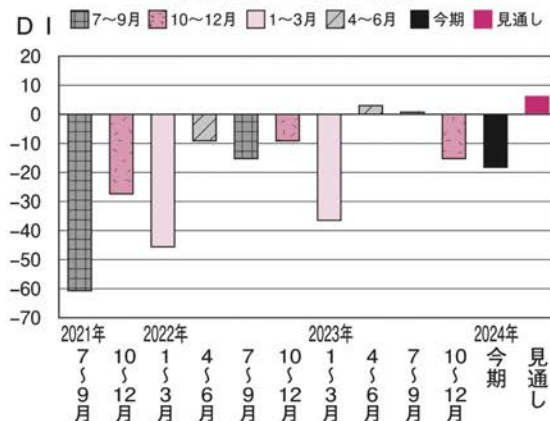
～業況判断DI値 改善の見通し～



来期の見通し業況判断DI値は、今回調査比24.3ポイント上昇の6.1と改善の見通しである。項目別では、売上・受注では36.4ポイント上昇の18.2、売上数量も33.4ポイント上昇の15.2、利益でも24.3ポイント上昇の9.1と、項目別でも大幅改善の見通しとなった。

食品製造業を中心に改善の見通しとなるが、原材料がりの製品は価格や数量の確保に問題を抱えている。

業況判断DI値の推移



サービス業

回答企業42企業

概況

～業況判断D I 値 大幅悪化で推移～



今期の業況判断D I 値は、前回調査比35.7ポイント低下の▲21.4と大幅悪化となったが、前回調査予想値(▲26.2)は上回る結果となった。項目別では、売上・受注で40.5ポイント低下の▲26.2、売上数量も38.1ポイント低下の▲28.6、利益でも38.1ポイント低下の▲26.2と項目別でも大幅悪化となった。

宿泊業では閑散期であるものの昨年同時期と比べやや増加傾向にあった。

分野別の状況

～総合的業況大幅悪化で推移～

宿泊業ではインバウンドが増加傾向にあるが、少雪によるスキー客の減少が目立った。

自動車関連は、例年車両修理が増加する時期となるが、少雪による影響から減少傾向となる。

自動車教習所は繁忙期を迎え、少雪によりキャンセル等も少なく前期を上回る結果となった。

来期の見通し

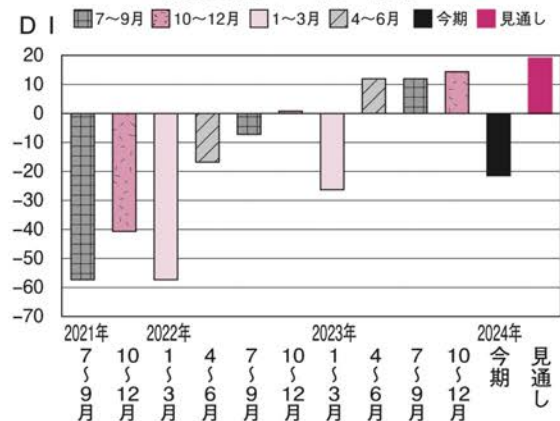
～業況判断D I 値 大幅改善の見通し～



来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比40.4ポイント上昇の19.0の大幅な改善の見通しである。項目別では、売上・受注では57.2ポイント上昇の31.0、売上数量も59.6ポイント上昇の31.0、利益でも50.0ポイント上昇の23.8と各項目とも大幅改善の見通しとなった。

各業種とも新年度を迎え、祭りやゴールデンウィーク等イベントに期待感あり業況大幅改善の見通しとなった。

業況判断D I 値の推移



運輸業

回答企業10企業

概況

～業況判断D I 値 大幅悪化となる～



今期の業況判断D I 値は、前回調査比50.0ポイント低下の▲30.0と大幅悪化し、前回調査予想値(▲30.0)と同様の結果となった。項目別では、売上・受注で60.0ポイント低下の▲50.0、売上数量も50.0ポイント低下の▲60.0、利益でも30.0ポイント低下の▲60.0の結果となった。

年明けから、主力商品であるりんごの流通量が急激に減少。燃料価格や経費増加も続いており業況は悪化した。

分野別の状況

～総合的業況は大幅悪化～

旅客運送業は、2月以降ツアーが増加し好調に推移。

貨物輸送は業者間の格差あるものの、主力のりんご出荷量減少による売上の低迷と、燃料費等経費の増加が利益を圧迫し業況は低調に推移。

2024年問題に向けての人員確保、提携先の確保など対応を迫られた企業もあり総体的業況は悪化した。

来期の見通し

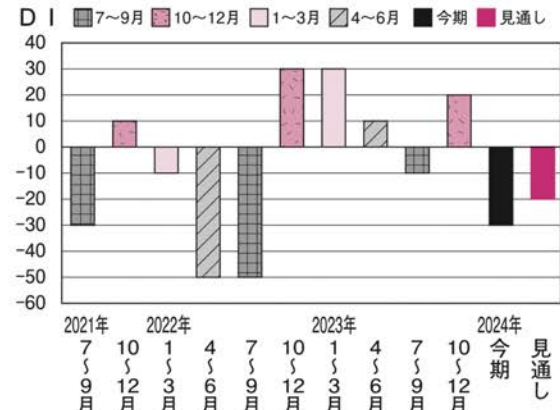
～業況判断D I 値 やや改善の見通し～



来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比10.0ポイント上昇の▲20.0とやや改善の見通しである。項目別では、売上・受注で30.0ポイント上昇の▲20.0、売上数量も37.8ポイント上昇の▲22.2、利益でも40.0ポイントの上昇の▲20.0となった。

「2024年問題」の対策による人材や提携先の確保が急務となっている。

業況判断D I 値の推移



飲食業

回答企業19企業

概況

～業況判断D I 値 大幅悪化で推移～



今期の業況判断D I 値は、前回調査比42.1ポイント低下の▲5.3と大幅悪化、前回調査予想値(15.8)も下回る結果となった。項目別では、売上・受注で52.6ポイント低下の▲10.5、売上数量も63.2ポイント低下の▲15.8、利益でも31.6ポイント低下の▲21.1と各項目で減少した。

食堂・ドライブインでは天候に客足が左右され鈍化傾向。新年会等各種会合等も週末に集中し、2月の閑散期を挟み総合的な業況は大幅悪化となる。

来期の見通し

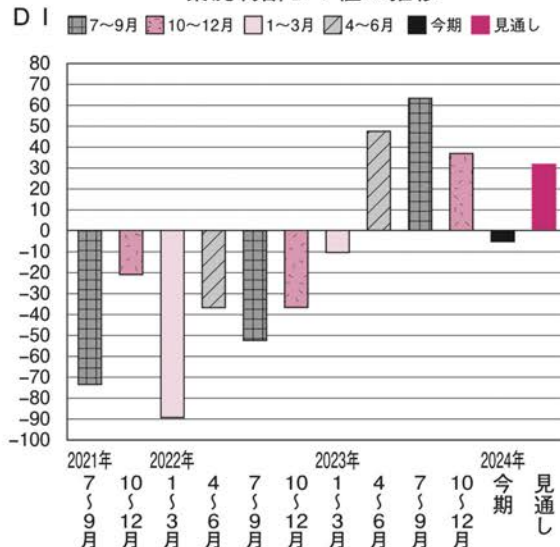
～総合的業況判断では大幅改善の見通し～



来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比36.9ポイント上昇の31.6と大幅改善の見通しである。項目別では、売上・受注で52.6ポイント上昇の42.1、売上数量も57.9ポイント上昇の42.1、利益でも57.9ポイント上昇の36.8と全項目で大幅改善の見通しとなった。

新年度に向け各祭りや、イベント等の開催により期待感あるも、「材料費」「給水光熱費」が高止まりしており利益確保が課題となっている。

業況判断D I 値の推移



不動産業

回答企業9企業

概況

～業況判断D I 値 横ばいで推移～



今期の業況判断D I 値は、前回調査比0.0ポイントの▲22.2と横ばい、前回調査予想値(▲44.4)は上回る結果となった。

項目別では、売上・受注で22.2ポイント低下の▲33.3、売上数量が0.0ポイントの横ばいで▲33.3、利益でも0.0ポイントの横ばいで▲22.2と売上・受注が悪化し2項目で横ばいとなった。

今期は、不動産売買の動きは鈍く、物件の高騰により利幅も縮小している。

来期の見通し

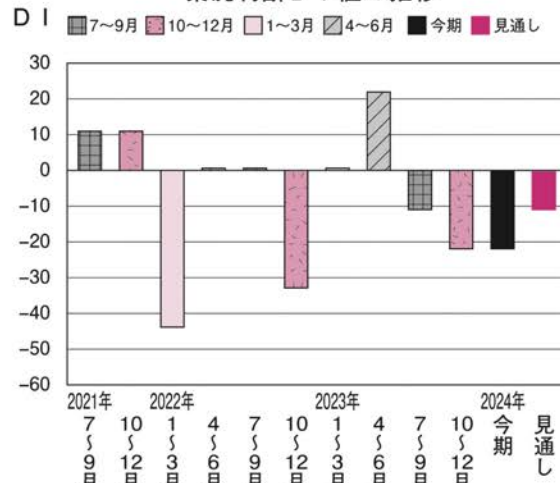
～総合的業況 改善の見通し～



来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比11.1ポイント上昇の▲11.1と改善の見通しである。項目別では売上・受注で33.3ポイント上昇の0.0、売上数量も33.3ポイント上昇の0.0、利益でも22.2ポイント上昇の0.0と全項目で改善の見通しとなった。

来期は賃貸契約の増加を見込んでいる。物件価格は高騰が続く見通しであり、SNS活用など宣伝・広告による販売強化や経費節減に各企業とも注力している。

業況判断D I 値の推移



調査要領

- 調査時期 2024年3月下旬
- 調査地域 当金庫営業区域7市町村(弘前市、黒石市、平川市、五所川原市、大鰐町、藤崎町、田舎館村)
- 調査方法 上記地域内291社から当金庫営業店の調査員による聞き取り調査。
- 分析方法 各質問事項で、変化なしとした回答部分を除いて、「増加(上昇)」 「やや増加(やや上昇)」 したとする回答と、「減少(下降)」 「やや減少(やや下降)」 したとする回答の構成比との差(判断D.I.)を中心に分析を行った。